

合衆國政治小學

三

福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄 番號	第	號
社會科學門		
政治部		
紀錄	政治學	項
目		次
全	3	冊ノ内第 3 冊
分類 番號	第	號
370.1		

T1A1

23

U 89

合衆國政治小學初篇卷之三

瓜生三寅

譯述

合衆國各州の政治下篇

第十七章

裁判局並に下等裁判所の事

一州内政廳の立法局施政局の立て方法令の作り
方及び其施行方並に郡縣事務の取扱其諸役輩
の權力職分等を既に論じ了り多しは是れより裁
判局の事を載せ裁判諸役の權力職分並に裁判取
扱ひの事を論じ及むんと此夫れ罪科の件々箇
條を定むる爲に其互ひの習俗及び交際

附きて理^り直^ちを明^めらるゝ其賞罰^{しやうばつ}を決^{けつ}する諸^{しよ}
法令^{ほうれい}と作^{さく}るも則^{すなは}ち立法局^{りつぽうきよく}の任^{にん}を執^とりて既^{すで}に第^{だい}八^{はち}
章^{しょう}にも論^{ろん}じたるごとく能^よく法令^{ほうれい}を心得^{こころえ}て罪人^{ざいじん}の
犯^かする法令^{ほうれい}ハ孰^{なん}れの法令^{ほうれい}なるやを決^{けつ}し罪^{つみ}に刑^{けい}
との輕重^{けいじゆう}如何^{いかん}を定め其決^{けつ}するを以^{もつ}て之^{これ}を實地^{じつち}
に行^{おこな}ふむの權^{けん}力^{りき}職掌^{しきさう}ハ宜^{よろ}しく別^{べつ}に其一局^{ききく}に
りて專^{せん}一^{いつ}に之^{これ}を司^{つかさど}るむべきなり若^し政府^{せいふ}
争^{あらそ}ひを明決^{めいけつ}し曲直^{きよくちき}を判^{はん}し州法^{しゅうぽう}は隨^{したが}ひて其
罪^{つみ}を刑^{けい}するの權^{けん}力^{りき}を具^{そな}へむんバ未^いた必^{かなら}ず十全^{じゅうぜん}
の政府^{せいふ}といふべし若^し人民^{じんみん}をして各糧^{かくりやう}に

自決^{じけつ}自判^{じはん}して屈^{くつ}を伸^のべ害^{がい}を償^{かへ}はしめなば恐^{おそ}るハ
他人^{たにん}の通義^{つうぎ}を損^{そん}る場合^{ばいけ}にも至^{いた}るべし故^{ゆゑ}に其曲^{きよく}
直裁判^{ちきはんぱん}を慥^{たしか}にして萬民^{ばんみん}をして鼓腹^{こふく}を得^えせしむる
は屈害^{くつがい}を償^{かへ}ふのひ罪咎^{ざいこ}を刑^{けい}するに役所^{やくしよ}を設^おけ置^お
くは若^し人^{ひと}ハなほ且^{かつ}つ罪咎^{ざいこ}諸惡^{しよあく}をなすもの多^{おほ}く
皆^{みな}を悉^{ことごと}く公^{こう}の糾問^{きうもん}を免^{めん}れぬや取り定^{さだ}めて州中^{しゅうちゆう}
一人^{ひとり}も叨^{たう}りは不正不義^{ふせいふぎ}被害^{ひがい}を蒙^{かか}るざらむを
第一^{だいいち}とて故^{ゆゑ}に法府^{ほふふ}の明断^{めいだん}を仰^{おほ}かんとして者^{もの}が為^{ため}
めは便利^{べんり}を謀^{はか}り各縣^{かくけん}毎^{まい}に裁判所^{さいぱんしよ}を設^おく此等^{こしやう}ハ最^{さい}
も下等^{かたう}の裁判所^{さいぱんしよ}にして之^{これ}を下等裁判所^{かたうさいぱんしよ}と名^なく

下等裁判にりて之れを司とる此役ハ諸州大抵
諸縣の人民より撰舉するなり之れを下等と名く
る詎ハ至輕の訴訟罪過を取り捌き最少の過料の
みを願ひ出づべき局ちれなり下等裁判役ハ諸
縣中より撰舉さる、者なきとも其裁判の權力ハ
郡中尽く行渡るも其郡中何れの土地より起
る公事でも又た其郡中他の諸縣中より住る人
の間に起る公事でも吟味糾問する權力ハ
るなり下等裁判役乃取捌き方ハ通例州法中より取
極め置くなり又た茲に訴へ出づべき金高とさる

よ於て糾問すべき罪科の品も定め置くなり州より
よりてハ訴訟乃金高五十トハ越へざる公事の
みよ限るもあはれども先づ大抵ハ百トハ又た其
余の金高の訴訟も取り捌き致さるなり公事ハ二様
なり或る害を受けざる償ひ、又ある借貸の事
就て金銀に關する訴訟をバ之後を民法の公事
と名け罪又ある谷のある人を糾問の爲めの公事
なりハ之れを刑法乃公事と云ふ都て罪といハ谷と
ふも元と同様の事なれども是迄の唱へ來りよて谷と
いハ輕き罪科よて之れを刑するも過料、又ハ

郡の獄屋に繋ぐ迄よて州獄に繋ぐぬ者なり公
事とい訴訟を起して法府の明断を仰くことなり
訴へ出づる方を訴人と云ひ訴へらるゝ方を公事
の相手といふ公事糾問の仕方ハ諸州大抵同様な
り今ま一例を舉げて下等裁判局よて常縣の民法
公事の捌き方を證をづゝ先づ訴人の願ひよて下
等裁判役差紙を認めて其縣の目附役へ送る州よ
よりて其郡中何れの目附へ送りてもよしと
扱て之れを以て其目附役公事の相手へ何の何某
訴人よて何夫の訴へ之れらるゝ付何日何時裁判

局へ罷出訴人と對決いふをべき旨命をるやう申
送るなり目附之れを受取て相手へ讀聞
せ其願ひらるゝ其寫しを遣はるべし若し相手留
守よて遇ひらるゝ其寫しを年輩の家族共
に渡して其住所に残し置るなり扱て相手へ直
申し聞けらるゝ寫しよて申し付たるや此次第と
其日附とを裏書して糾問の期限迄ハ差紙を裁判
所へ返るなり若し寫しを遣はるゝ置るなり其
期限迄て相手出頭せざるや又新なる差紙
を出さるなり双方とも本人自ら出づるも何れ又

公事師とつづ者を頼み、對決することあり公
事師とて公然人の委任を受け、其人より代りて
其事務を取扱ふものなり。双方出頭するところ
に訴人の訴訟したる事實を明辨し、其相手へ又た
之れを反して已れ、理論を辨し、以て訴人の願ひ
を壓伏せんとして、各其意存を述べ、之れを双方
の對決と名く。双方既に吟味を受くる用意、齊のふ
とき、裁判役其對決の吟味ふか、るなり。若し其
証人出席之れなきとき、公事ハ他日、延びをな
り、双方各其願ひあるところ、裁判役より証人召狀

を出して、証人の出席を命じ、裁判役双方に証
を吟味し、法令と正理と隨て、是非曲直を判断し、之
れを裁判役の判断と云ふ。下等裁判役の判断する
金高は別、費用を加へ、公事の諸入用を負けた
る方より拂ふ。む其費用とい、裁判役目附並に証
人へ拂ふべき役金なり。若し吟味の節に至り、相手
れ出頭之なきや、裁判役訴人の方、証人の
証拠を吟味して、公事を決まづ。若し又、呼出
の節、訴人の方出頭せざるとき、裁判役之れを公
專取消と判断するなり。裁判役判断の前、何

時なりとも訴人の方より公事を願ひ下けらるゝ
とを得べし然るを亦公事取消とせらるゝ
なり都て公事取消となる或い何れ訟なき公事
あるときを訴人の方を負けとして入費を拂ふ
むるなり但し借財の事は就て其借主無事と判
断は承伏されば已むを公事其費用を免るゝを
り判断は承伏せらるゝ双方裁判役の前より出
其借主貸主の申分は承伏したる由を告げ裁判役
其通りは判断せらるゝ心得るをいふなり州より
りて承伏得心は趣き書面より認め借主をして調

印せしむるをいふ

第十八章

立合役吟味品物取揚品物封附。

越訴並に罪人召捕の事

凡そ裁判の権は只る裁判役や下等裁判役計り
て専轄せらるゝのみあり訴人相手を裁判役の
みは吟味は任せていはれ其決断は心服せらるゝ
ふ決断はゆゑぬものにて多少不安心と思ふ事
あるが故に諸州皆を國律に定め置いて誰れも
立合役の吟味を請ふべき通義あるものと此通
義の英國にては數百年來用ゆる所として我々合

衆國人を元と此國より來りし者より此通義の我
 う國をも已ては其時代より之れありしなり立合
 役とい州法に隨ふて身分を定めて撰舉し盟て下
 の爲に公事の事實次第を吟味し其確証を認めて
 其情實の相違なる處を論辨する連中れと云なり
 其實証を論し冤屈を伸ふることと立合の直辨と
 名く下等裁判局の立合は諸州大抵六人より成り
 其上の局の立合は十二人なり此等ハ皆を永代の
 地主あるんことを要し之れを撰舉する仕方州
 によりては同一く公事の對決既畢りて双

方各其意存を述べおき既し其証抑吟味の時
 及んで双方各立合の出席吟味を請ふとを得べ
 し然るに然る裁判役より立合呼出状を出さ
 目附へ命じ定む通り身分は備りたる相當の人
 数を出席せしめて公事吟味の立合役なりむ立
 合役既し双方は証抑議論を聞き畢りて後を目附
 役誓言をなして立合役を預り便利の場へ連れ
 行きて之れを守護し立合役一統一致乃直辨既し
 定まるゝ又ハ裁判役より退席申附はることある
 迄は裁判役乃差圖乃外ハ別は飲食とを免さる

且つ其間を誰よても立合役は説話を禁し又
た目附役とて一統直辨一致せしやを尋ぬる外
に裁判役の差圖なくして此輩は言を通るを許
さず立合役は必に一統其説其辨一致同意を
とと要し既ち一致するや其目附の守護を公
堂へ歸り其直辨の次第を裁判役へ通し裁判役其
立合の取見は随て判断を為し若し其時刻程歴し
も一致の直辨定まり議論同意なきときは
裁判役此輩を退席を命じ新に立合呼出状を出
なり但し公事の双方一致してあるを裁判役の

断決は任せんといふ別は立合役を呼出さぬ
なり法令は於て定め置きある時日の中は判断
の金高を差出さぬは於て下等裁判役品物取揚
状を出し目附役をして其高を取り集め或は借主
の家財諸品を取揚げ賣拂ふて後其刻限迄は返命
せしむ家財諸品とい持運びの出来る私有品
て家屋舗の類を除いて其余の品をいふなり若し
其金子取り集めたりとさへ不充分に終りて取
揚状を返納するなり若し目附役不忠みて取揚状
中に記したる差圖は背きたることある其金高

へ目附役と其保証人より拂へしむべし貧民の爲
ふ諸州皆な仁恤の法令を立て必用の家什衣服
臥床職業機器諸具は諸品へ取揚は賣拂ふ
くせなく留めて其家族乃使用し任をより扱ふ
古昔ハ其償ひ出來ざる借主ハ入牢せしむる常例
行へれしとを令ハ過料刑罰の時此外を此事全
く廢止せり

以上論する所を下等裁判局に於て尋常公事取
捌きし手順なるとも其外公事乃模様によめて
色々の法もあるなり品物封附状の法即ち其一を

り品物封附状とを借主は資財を押へ吟味済みて
判断畢る迄留め置りしむる命令状なり是ハ借主
身と懸して對決の席へ出つるを避けんとする恐
ろる其私有品又を己が身と他郷に移さんと
する模様ある其貸主と欺くやうに氣色之を
と疑ふべき筋ある趣きの訴人より願ひなると
ハ此法を用ゆるなり借主留守なる身と懸した
るのときを縣目附封附状の写と封附けし品
物の目録と其者の住居に留め置る若し其郡内
に一も住居を持たぬとハ其私有品と所持いた

ていたる人へ写しと目録を渡し置くべし若し
吟味乃日ふ至りて借主出頭せざることを訴人已
れが願ひを通りて判断と請受け而して封附の品
物は取揚の状と出さるなり

双方各下等裁判局の判断は心服せしめて尚上局
の吟味と請ふとない之を越訴といひ越訴したる
方と越訴人といひ其對敵と越訴の相手と名く
下等裁判役の職務中にて殊に大切なる事ハ罪に
り咎ある人を捕へて糾問するふなり是れ即ち刑
法の公事なり尋常罪人と名ける程の重き罪科と

糾問する權はなけむとも箇様なる罪ある者と捕
へしめて糾問するやうふするこゝに於て出來る
なり罪を犯せる人らと知るか又さへ夫と疑ふ
ことを誰よても之を裁判役り下等裁判役へ訴へ
出つべし裁判役此訴人と能く穿鑿し誓言と為さ
しめ若し証拠人あらざる之とも穿鑿し愈相違なき
と知らへ罪人名捕状と出さし罪人を捕へ来し
むべし訴人と其証拠人と吟味して次は囚人と其
証拠人と吟味するが須なり扱其局にて裁判をべ
し程の罪なき囚人の糾問ふらるべし但し其

願ひより立合の吟味と許るを――若し其局は
吟味する權と持しぬ程の罪なりを其訴人と証據
人へ命し其罪人と糾問吟味をばする權カある一等
上れ裁判所へ出で、訴へしむ而して其囚人と受
人へ預け置てもよろしき罪なりを其預人より
他日召らるる必しき罷出ざるをばする旨の証書を受
け取り若し預け置るるに罪人なるや又い十分
なる預り証書も之れなきと記し郡の獄屋に入れ
て糾問の時を待たしむ但し第十九章は示すを以
るが先づ糾問の前は立合役を以て一度ハ罪

人の取調べとをばする事なり若し本糾問より
前ハ罪人脱走の虞之なきと記し前以て之を捕
つて穿鑿するハ不用の事なり訴人と其証據人を
必し他日呼出の節相違なく罷出する由の証書
と認め若し罷出するをばする若し高の過料を拂ふ
べき旨と記し受人と以て之と受合べし罪人預る
り人の証書も亦は是と同様にして若し吟味の日
に罷り出ざることを望通りの過料を出すとて由
罪人相認め受人之と証とべし

第十九章 下等裁判所以上の諸裁判所並

大立合少立合役等の事

下等裁判局の直上の役所を郡裁判所と称する者
はて各郡毎に一局宛之なり此局は通常一人の郡
裁判役より司するなり其撰舉ハ郡の撰舉士の撰
むを多しと一柿よを立法局より撰舉するも有り
又老職の差圖許容と歴て奉行より撰舉する州も
あり又州よりてを裁判役の數一人なりぬも有
り又輪番裁判所の裁判役よりて之を司するも有
るも有りとも此役所よりて民法の公事ハ下等裁判
役の判断するより其金高多き者と取捌き刑法

の公事の郡中より犯したる輕き罪科と讞断する
なり下等裁判局より越訴よりて移り來り公事も
亦此局より決断を然るとし之と越訴の裁判
と為るといふ都て越訴は有りて初めて持
り出したる公事を捌くとし之を初訴の裁判と
稱するなり諸州又は一州内より郡裁判所より次
弟より高き裁判所二三ヶ所を立つ州よりて只
た一ヶ所のなるも有り其名ハ州よりて同
じハ輪番裁判所上等裁判所最上裁判所越訴裁
判所の如き是なり輪番役所と稱する訳ハ一州と

裁判は都合よきやう幾區ふも分ち其分ちたる區
毎ふ一人又たは其余の裁判役と撰挙し其一區内
の各郡と順番より廻りて一郡毎ふ一年一兩度宛も
役所と立つる故なり此役所の初訴も越訴も共ふ
判断するも此より郡裁判所より来る越訴と取
捌き又郡裁判所よりも重き諸罪と糾問を都て諸
罪と糾問する役所と時として聽断の役所と名
く郡の裁判所も輪番の裁判所も皆を取捌き同
様の事なるが故に各一局毎ふ事情の決着と吟味
する立合役と大立合役がなくてはならぬ事

情の決着とハ借賤犯罪は關する事情を吟味し其
證據を採て決議となすと云ふ又法令の決といふ
ことなり是ハ立合役も關する事を裁判役の
行ふべき事にして是ハ此法と當て彼ハ此法
と決断するといふ事事情の決と吟味する立合
役と大立合役と區別せんが爲め之と少立合役と
稱し小立合役ハ十二人より成り而し其直辭を立
けるは於ては十二人とも皆な一致ならんことと
要し大立合役と小立合役と撰挙の仕方ハ州法中
に定め置くなり別は奉職の者なり各縣毎ふ裁

判と心得たる者数人と撰み其名と一人一枚の紙
に認め各縣毎に之を箱の内に入し置き縣廳書記
官之れと預くる州によりては諸縣より其名札と
各其郡の書記官へ送りて一箱中は納め置くも
り扱裁判役所相関くと記入用夫の數を其箱中
より引き出し其引出たる名札の人々と呼出して
立合の役輩といはるなり大立合役の職分ハ郡中
よて犯したる罪と咎とと探索し誰よても愈罪と
犯したる証據分明なるとは其罪案と認めて其
人と糾問とては裁判役所へ達するなり大立合役

の人数ハ州によりては多少なり然し二十三人よ
り多うと至十二人より少なうと扱又人と糾問
よりくれば就ては此人数皆な一致するは及ば
ぬなり裁判所既し始まるとは大立合役夫々掛
りの諸事乃案文必し確實と肯とせんとと誓ふ爰
ふ於て裁判役各之に掛りと命し其中一人頭取と
命して大立合役各詰所へ引取て其職分と務む
るより訴人なりて某人の罪咎と訟へ出づれば一々
之と聞て証人ありは能く之れと穿鑿し時宜より
てハ司法役の扶助差圖と請ふ愈其訴より人

と糾問は掛くべく察せど書附は認る其罪と思ふ
 大と委鋪記載と之と罪案と名く頭取之は調印
 此案正は誠なりと裏書し始り之と認るたる立合
 役之と裁判局一持出るふり若し其罪人未だ捕つ
 すべし者なりバ爰は於て之と捕り糾問は
 掛くるなり第十八章と見るべく大立合役ハ罪と
 糾問とるといふでもなく只ふ之を穿鑿とす大の
 ことなるバ中より不用のものと思ふ人もあるべ
 し下若し此役と欠る腹悪しと者の証言等よ
 り罪なき人も冤屈の難に陥りて裁判所は引出

さる種々の難波數々費用と受くること亦少
 なるべし大立合役と設くるハ此冤屈を
 防がん為て訴へ出たる事實と穿鑿し意を用ひ
 て其真情を探り實は確証あるものありんば
 切はへし罪名を附くることなり合衆全國の國律
 改正第五ヶ条は云く非常の時の外は立合役の
 罪案はる小なり誰れを誰れも大罪又ハ他の不
 廉恥の罪名と受くることなり我が諸州の國律
 民法も皆な則とり隨ふべき全國の國律中既に此
 のことと記載し置ける程は立合役を設くるハ

實ふ必用の事と思ふも、不廉恥の罪の意義ハ然るに當時専ら議論は右の如く預め大立合役を以て罪の有無輕重と探索するの必用なりといふに、只る全國の裁判諸局の事小關して、つゝさやなり敢て諸州より之をあらざるも可なり、といひ是を以て近來ハ大立合役を廢さんと企はる州をありと、假令邪曲の人ありて屢々無罪の人と訴へ出て非義不公平の証人ありて其証人を並べ立はるとも、大立合役の前より之を穿鑿するよりも、囚人の方に証人を入るゝ、何時も裁

判役々下等裁判役の前より穿鑿する方が却て本人の爲にも不用に、糾問の面倒を受くることもなく、其費用もたつとづと思はる、故に最上裁判所とハ通例論審裁判所の直上の役所として、諸州大抵を此局と以て、州内第一等の裁判局とも、此局の立方と其捌き方々模様ハ州乃異なる、小隨ふて稍同うと、民法刑法兩様の公事通して其初訴と越訴とを論なく、之を決断するは於てハ諸州皆を同一唯だ、二ユーヨーク其他二三の州の如く、別よ之よりも高き一局と設けて越訴裁

判所と名け越訴の裁判のミと司とる但一其職分
へ最上裁判所より越訴一来る公事と令一度穿
鑿とる迄のことなり
郡裁判所輪番裁判所及ひ最上裁判所は於て先づ
公事れ始りへ差紙と出して其郡の郡目附として
其事と務と欠一ひるなり此諸役所より出たる罪
人召捕状品物取揚状杯も矢張り郡目附よて奉職
するることあり郡目附の此等の諸局は於けること
猶縣目附以下等裁判局に於けるがごとく其權力
職掌は第十四章に示し置きとせり

第二十章

正理裁判局遺書裁判局吏罪裁

判司の事

以上論むる所の諸裁判局を設くるは就きては民
の爲に善惡邪正明決を得るやうに種々の處置制
度ハ施し置きとも以上の諸役所よてハ其明断と
得るも公事訴訟も屢々之あるが故に簡様なる
時は當て能く其民の冤屈と伸んとて正理裁判局
と名けする一局と設く都て法よ由て裁判を尋
常の役所よて断決と得るゝなる本ハ双方とも
証拠人のなき時はよるなり然一正理と以て裁判

是る局は於てハ証據ありども双方を以て誓言
を以て實と吐く一むづ金と借りる者其借金
の返済と避けんとて家賤金銀と愚一たりとも此
局は於て是非とも之と差出させて家賤取揚の
文面と皆済せしむべし又此者より借金ある者は
らば之として其金子と返済せしむる局へ上納せ
しめて元の貸主の不足を充つることを得べし又約
定と違へんとする者ハ尋常の法令を以て裁判する
役所よて唯だ償料と出させる大の決断を得る
のみなれとも此局は於てハ時よりて是非と

も其約定と踐まむることを得べし又法令の裁
判所は於て曲直判断の糾問と得る追ハ一人一身
よては数人の仲間よては偽計の所業と行ふこと
又ハ人の地面と奪ハ其他種々の害を犯さんとす
る者はありとも之と禁して決して許さることを
得べし

昔ハ諸州とも此局と立る處半ばは過ぎり乍去
正理の裁判所と名けて別段ハ一箇の局と立つる
ことハ今ハ甚だ稀れよて只二三の州は有るの
こゝして正理は由て公事と捌くの權も多くハ法

令と用ゆる尋常裁判所の裁判役は兼り持とせたり
正理の裁判は法令の裁判といふ公事の始め方同一
うと訴人先つ訴訟の案文と認め相違之れなき趣
趣は自ら誓ひと作と但し其案文の中より相手と
呼び出し誓言の上より返答いたしなれ趣きの
願ひとも記し置き其司の書記官へ托し書記差紙
と出して相手へ某日出頭いふとべき旨命ぜりむ
叔當日に至れど只る訴人の訴と相手の答りみよ
て糾問吟味と為し或は証拠人ありて双方とも之

と差出さし是公事師と一なる其公事と論議せし
を司ふて其決を定め以て之れと實地は施ふこと
なり
又爰は其模様尋常の法局といふ同トうなる一局
あり之れと遺書裁判所と云ふは一郡毎に一所
と設く遺書裁判役一人ありて死したる者の遺書
を証し遺物の配當と定む遺書といふ死後私有品の
分配し就きて存生の間より認め置きたる書附りか
り
別は一州毎に吏罪裁判所と名くるものあり是と

全く常例法の裁判所よりして吏罪と糾さ
ん為ふ老職の集りたると此の名なり吏罪とい官
吏其職掌に於て不正の行と為たる時の罪を假
令に奉行賄賂の為に一新法と許容調印する裁
判役賄賂又は其他より求むる所より不正の取捌
きせし等のこと一扱其官負の罪と申立つる權に
代議士の局よりて其罪名と負せられざる官吏
と糾問する權は老職の局よりあるは是れ國律に
定め置る所なり但し此風習を英國より傳來せし
なり英國よりてハ吏罪と申立つるハ下院よりて上

院よりて吏罪裁判の上司と為る吏罪取調の
時代議士の局より所作ハ大立合役々尋常の法局に
於て務むる所と同様なり訴人よりて代議士の局
へ訴へ出づる時其局よりて之を穿鑿し其日出席
の人数過半の限は罪狀判然たる証拠を見認むる
よりハ罪案と認めて之を老職の局へ送る之を吏
罪の箇條書と名く州よりてハ當時在職の代議
士全員の過半よりて同意ならんと要するをり爰
より於て老職の上吏老職と集めて一局と起し犯罪
の官吏と其公事名代人と呼出して之を其罪案は

返答せし老職の輩必も其証拠によりて誠實に
其罪を吟味決断いさへべき旨を誓ひ而して其糾
問の日と定む爰に於て代議士の局より通常其同
僚中より糾問事務を取扱掛りと撰むるが但し其
事務の手續は尋常の裁判所より於けるが如し老職
は退いて常の裁判局の立合役のとて分別勘考し
其出席の三分の二又は職全員の三分の二は
愈罪をばさ者と一致せるといふ乃ち之と罰し
て其職を免し或は身分を下けて其の時間若くは
生涯内の職務を奉りてせし者とて或は當職も

免し兼て身分を下げることもあり此局より言渡
と料は先づ右丈の事にて若し其犯しする箇条が
法局より尚又取扱べき罪料なるといふ改定て下
等裁判局の吟味糾問刑罰をも掛けることあり裁
判掛りの諸官員と退くること立法局よりの申送
りより奉行して之を取行ふこともなり若し裁判
役の者其職を私と施しする疑あるが又其職を
當らざる見込ありて誰にても之を立法局へ訴へ
出て立法局より其裁判役と呼び出して其申聞を
と聞き兩局とも相當の人数より退職せしむるべし

政の見込なるを以て其職を免るべき次第道理を
認めて奉行へ送る奉行之を尤もや思ふと雖い乃
ち免職を申附くるなり此免職の仕方ハ州より
て之なき所あり「ニューヨーク」其他二三の州
於てハ奉行へ通達せし立法局の之を以て免職せし
む既ニ此「ニューヨーク」州杯にてハ裁判役の輕
役人ハ却て奉行の方より申し而して老職を以て之
を免るるなり又稀ニハ吏罪を以てハ裁判役ハ免職
とるゝぬ所もあり

第二十一章

運上割附並に取集の事

都て政府とするものハ孰れも其費用を支ゆる仕
組と立つる權を有していたるなり政を致すに
就きての入費は供ゆる金銀ハ其州内ハ永世不朽
の歳入の湧き出づる源なり格別若し左
ん税銀の法を以て取立つるより外ハ手段ハ之
なきあり税銀とい運上のこととて州用は供へん
為ニ居民の身体と私有品と割附たる金子なり之
と体は割附くるとい分頭税と名く頭割の運上
といふこととて一人づゝの頭の上は拭けて割附
くる金高といふなり然れども人ハ貧富能不能

の分限あり然らば其分限に相應して公費を出さ
るべき人たるもの道といふべし故に之れを
其私有品の上より割附るといふ運上の割附に更
に正齊平等なることを得べし故に我々が合衆國に
ては分頭税と取立つると甚だ僅のこととなり爰に
又運上の掛らぬ品あり州郡縣の公用品兼て其
公用を取扱ふ家屋鋪囚獄教育院等並に其地面學
校會議所及び其地所墓地其外學術教育に關する
諸品是なり但し鐵道為替受負製造其外出合金を
以て事業と作し會社組合の諸品は矢張り一人一

人の私有品のことと運上は異なるなり私有品は
二の別あり不動産可動品是なり不動産といふ家産
のこととて地面及び其上に建てたる家生やたる
艸木等のごとく持ち運ぶの出來ぬ品なり可動品
といふ私財のものとて家財諸道具商賣諸品金子並に
貸附金等のごとく持ち運ぶの出來る諸品といふ
扱又人々の私有品へ運上となくするは各其價に
應じて割附くべき筈のもの故に先づ第一は運上の
うるべき品物は正當なる價を定むるが肝要な
り之が為は運上割附方の役人縣中と巡歴して都

て運上と出とべし人の名列帳と作り其人々の死
有品は不動可動の別なく其正當の價と書留め之
と其掛りの郡の官吏一達を此郡の役人ハ各縣の
運上目録と作らしめて之と取立てしむることと
司とるなり州よりてハ運上と出とべし人々と
して自ら其運上のうゝる死有品の目録と作ら
しむるもろり故に之を為めは預け白紙の目録帳
と印刷して人々へ分ち置くなり唯其價附の偽
りなりしめん為に運上割附方一々経巡りて其
品其價一毫計も私なきよ誓言と為しむ分頭

税を取立つる州よても法は於て一人宛に割附け
たる高を以て一々目録に認むるとなり
運上目録と作り出さんとするは先づ前は一縣
毎より取立つる運上の總高何程といふことと
知るべし其總高とハ三通の高より成るなり一
ハ昨一年中の縣の入費を拂ふべき高二ハ郡の
入費に附して縣よりの出に前三ハ州廳の費用
に當つる用金の縣への割高是なり州と郡との費
用と諸縣へ割附くるハ運上割附方よて取調べ
たる價に隨ひ各縣中の死有品の多寡に應じ

て割合を立つるなり州の勘定吟味役諸縣より郡
内所有品の價附けの達しと受取り州費を割附く
るものと之より由て各郡夫々の出前と定む各郡又
た此州用の出前より郡用の高を加へて之と各縣
所有品の價より比例して諸縣へ割附け此割附高より
縣用の高を加へて各縣毎より取立つる運上の總
高と此のこゝろ毎縣運上の總高定まりて後裁
りの役々より運上目録を作らしめ人々の名前と
其所有の價とを記したる同ト行ふ其人の運上出
前と記し置く目録出來上るときは其役々

よて證印し之を運上取集方の手に渡り兼て運上
取立の令文と授く既より取立濟むるときは縣用の分
大ハ之を受取り預るべき役人へ渡し州と郡の人
用の分と郡の勘定役へ送り郡の勘定役州用の分
と州の勘定役へ渡し其残りを預り郡用より供ふ

第二十二章 教育の事並に學校積金學校
等の事

政治の大主意ハ其下より立つ人民として益と安全
より益幸福よりなるふなり是故より政府はものい
く民を保護し其生命と安んじ其活計と祐ふべき

べし法令を立て、巧み之と治術を施さず工夫
と備へざるを得ざるは勿論なれども唯之のこ
ろど民俗と敦く、国風と美し、民として日
月小樂國福地に進ま、ひるやう良工夫と尽さ
るを得む夫れ國家の幸福と大ひよせんと欲せば
人民と教育とを、如くは、是れ我々國民の有
様と以て彼の教化と蒙らざる國人は有様は較ら
べ見れを則ち明らかき知る、ことと得べきなり
蒙昧不學のひと、て情弱恒習放辟邪侈に至る
はるの本源より、て学科教育のひと、て心と樂

其身を起さ、ひるのこを、民俗と美し、風化
と敦く、その大効あり、叔又、國民の安全幸福と
大ひよせを、不羈自由の政治に過さざる者ハな
しといへども人民の教育行届たらずんば其民自
づから治を自ら政とせしむ、ことと、進も出来
ぬものなり、且つ全國の人民中其財力自より能
其子弟を教へ、獨り能く之を育むることと得るも
のハ世に幾何、あるや官府棄て、之を顧みざる
ハ教育の道絶つて、開化地と拂らふに至るべし、而
して尚不羈の善政と立てんとせしむ得べし、いぬ

故、此政治と確乎不拔とせんと欲せば、宜しく教育の道と起ころし、教育盛んをれを治法治術の人才陸續として輩出せざるあり故に我々諸州を皆な人才教育の學校と設け、貴賤貧富の別なく、尽く公費にて少年子弟を教導せしむるなり。諸州學校の入費は、只た其一分の州費と以て之を補ひ、全く州費と仰ぐもの唯た二三の州に過ぐば、州によりては積金と備へ置き、其利分を以て年々學校の入費に供するも、何れ積金といふ都て商法、其外諸の事業と起るとも附して出合ふる元

金のことよて州の積金といへを政府の費用と補ひ、又ハ掘割道普請等の公用に供せん為より別積金と置き、金銀及び都て州の公有品といふなり。此積金の利分と其他種々の上り高と總稱して、歳入と名く學校の積金ハ政府所有の公田と其用は供して、持ゆば州にありて或ハ之と賣り或ハ之と貸して、夫より上る天の高と以て學校積金の一大部分と、或ハ學校積金に不殘之と以て積み立て、其利分を以て年々學校の費用とせし之と學田と云ふ若し其利分學校の費用不足なるといふ或ハ其一部或ハ全く別運上用

金と拭くる又ハ州廳の寶庫より之と補ふなり我々新諸
州へ多く莫大の學校積金と備へたり其地多分ハ未だ人々へ
賣拂ふ合衆国大政府の所有なり一頃より早く
立法院にて一議と定め各縣毎ハ第十六号の地面
一區宛ハ必を縣中の諸學校へ附与して以て其費
用に充てたり第十六号の地とい縣内の中央より
一區の地取よて都て我々諸縣ハ皆を三十六
の基盤目より割りふる者あり一号二号と端より次
第に数ふ我々恰と真中の第十六号となるなり是
より由て此等の州ハ一州毎ハ三十六分の一の地ハ此

の如く學校の入用に宛てきり但し其州内の大學
校一派ハ附屬の用地ハ此外なり唯だ其地面の大
ハ諸小學の總附屬地ハ比を我々小なり此地面ハ
夫々の拭りの官員よりて之と支配し其所得と定
法の多く用は供ふ其上又合衆全國の大政府より
若干の金と受取りし事ありて大ニ其諸州の學校
積金乃高と増へたる其額ハ一千八百三十七年の
ことなり一ハ大政府の寶庫に納まりたる金子の
高其政府の費用と拂ふても尚三千万ドル程の金
と餘りふり是と以て立法院の合議より此餘計の

歳入と以て當時はる所の各州へ分配して立法院よりへ用ひりて再び差出さるやう命する迄は各其州にて之と貯へ置くべしと命しき故に立法院より再び之と取上るに約束ありきども既に其時分に多分取立てざる見込なり。お今日に至りて其事殆ど確定のやう見ゆるを以て諸州多くは此金と以て多分學校積金の用へ供へたりなり故に之と大政府配當の積金とも稱し又州廳の寶庫より出さるべき分は通常之と州内の諸縣へ分配するふり各縣此配當金と學費用金と又ハ其學田

より上る金とを合せ縣内と都合しきやう幾區の地方に分て其區中の何歳より何歳迄の子供の数は應じて每區は分配するやう又ハ法令の定むる所あり。其法は随ふて配分するなり若し此受取りする金よて諸教官の給俸と渡さふ不足なるといハ其不足は每區より勘定勘手と作り其學校へ差出し置く子供の父兄等より取立つるなり。毎縣學校の爲は都合しきやう其地と相當の大地區々小分ち一區毎は一小學と設け之と區學と名く此學校ハ人民普通の積金よて相支へ普通の利

益の爲に設け且つ其教ゆる所ハ普通の學科のミ
なると以て又た之と普通學校とも稱之より一人
又ハ其余の長官と撰らんとて校中の庶務を司ら
ん書記一人と設けて校中の會議其外萬事の取扱
と記しめ會計役一人と立て、其官繕の用金教
官俸給の勘定切手等を取立て、む學校役輩の内
最上なる役ハ州内普通學監督よりて或ハ之と教
育監督とも名く監督ハ諸學校に關する諸連假令
ハ州内區々住する子弟の總數並小在學子弟の
負數教育費用の金高學校の總數一年中學校營繕

の費用其外普通學校の運爲動靜千差萬別盡く之
と總轄することと司さとり若し州庫より送り出
る金子の配分と司くる役輩なきとき之も亦ハ
監督管轄して諸郡へ割附け配當をせし立法司會
議始まるとして平日總轄して取集めする事務諸
件と自ら然るべくと勘考せし學校諸事の改革等
と達し出つべし郡にも亦一人の役人ありて州
の教育監督より配分したる金子と受取り之と郡
内諸縣へ配分し郡中子弟輩の負數と教育監督へ
通達し其他法令中定むる所の職分と掌とる州は

よりてハ此役と設けぬも有り然ると其金ハ
監督より直ニ諸縣へ割附け配當一諸達も縣より
監督へ直ニ通るなり又ハ縣より夫々の役輩に
りて教官と驗一學校と見廻り學校用金と諸區へ
配分一區々子弟貧數目錄と集り並ふ法のこと
各事各件の明細と記して郡の役人又ハ州の教
育監督へ送る等の事と分掌を州よりて各郡
一員の役人又ハ數貧の司と設け教官と驗査一
郡内諸學校の事務と掌とらむる處も有り
大學校中學校も亦夫相應は州より扶助を受く

るなり但一之が為別ニ積金と備ゆる州も有り
又州庫より別段之を以て手當と為るも有り

第二十三章 堀割並ニ鐵道の事

氏其職業の勉勵をれば夫は應じて相當の報を得
て其望を失ふ其異なるといへとも其勞同一
いれは其得る所を亦た同トするやんやう工夫
と致すこと是れ亦た政治の大主意と違ふるも就
て欠くべくざる一事なり若し之を顧みんば
此州の民彼の州の民と其利得と同ふることと
得る又た一州内よても其人民皆を悉く其利得と

同ふとることゝ出来ぬものなりおの遠く市場と
離れて住む舟路と往還は遠く住居の人へ其近
邊に住む者より比を其勞の同一といへとも其
得る所を甚ど異なり是は賣るゝも買ふも運送の
費用多けきなり州内彼此の商法を容易くせん
為に往還堀割等の欠くべからざるに此故られな
り此為に何より堀割の舟路を第一肝要のものに之れを
施すことと得べき土地を必らに之を作ると
良とに堀割の時として組合會社にて造ることと
られど箇様を大工作の事業に州廳にて造り而

て州廳の所有品となすと常とに堀割を造るゝ入
用の金を集むるゝに隨分立法局より人民の所有
品へ總運上を拂われれば拂られぬともなけきと未
ど其當然の理と尽もとせむ其故に此工作を仕揚
る迄の時日の間此の莫大の金と人民より
出さしめなを極めて不便なる上其難渋云ふ計
もなす是れ一つなり州内何れの人民も其出銀に
同様と拂うられとも其地堀割の所と離るゝの遠
近は隨て其利益を蒙るゝ極めて同一ならざる且つ
毫も其益と見ざるものも有るべし是れ其二つな

り是故より州廳にて箇様なる大工業と企つるより
法令上通例積金の一條と定め置けり其積金の利
分を以て此工業の費用に當つるなり此積金の立
法局より之れが爲る許しを地面所有品並に金
子より成る我々西方某の州にてハ皆な此のこと
くよりて積金と拵らく此積金ハ大政府の立法院
より其州内にある大政府の公田と恵み与へたる
乍去此積金位にてハ其費用の一部分は足るものにて
此のことと大業と仕揚ぐるものと此積金と拵ゆる
ふづらむ且つ州よりめて此積金と拵ゆる

と地面の類と买持せざる處も之れあるが故より其
州廳にて長年限の間外より金と借り其返済ハ
掘割積金の利分と其掘割通船の運上にて拂ふな
り若し之にて其返済不足なるときハ始めて
用金運上と拵けて其不足と補ふことと法とを
なり其金を借る事務ハ州廳にて之と扱ひ別は其
掛り此人よりて之と掌どり其金と出さずハ其
の期限は約束の割にて利足と附け金子返済い
とづき約定の州廳の證書切手と渡さ但し利足の
分ハ通例半年宛に拂ふなり此切手ハ千ドル又ハ

其以下の高毎に一枚宛として幾枚も拵へて之を
賣捌くなり此のとき證書切手と賣捌きて借り出
す州廳の借金と州の元手と称せむ此切手と賣
捌きて其金と州の工業と興と元手とせむなり
此切手も鉄道其他組合事業の會社より出と元銀
證書と同じ彼是遺取通用の出来るものにて金銀
約定切手のごとく互に賣買せむとて得て商法向に
要する一品となる扱貸さんと思ふ大金と貯へ
し者ハ之を買取り州廳と目して大工夫なる借
主と蓋し此切手の金と返済せむ不足なるも

ありとも其立法局より運上用金と拭けても金子
と才覚とる權力は終なり此のとき種々
の事業の爲に借金と致すと諸州多く然り諸又
右此切手と賣買せむものハ只我々国中の金持の
みな遠く歐羅巴の人連も我が切手と死持賣
買せむ者多しといふ
堀割積金と取扱ひ堀割の事務と監督とる等ハ皆
各夫々の役人ありて之を司とる又各別は堀割運
上役と称する役人あり堀割の川筋は傍ふて何程
に定まりの間を隔て居り堀割通船の運上と取

立つ此運上へ其堀割と通行する船の主より拂ふ
なり「ニューヨーク」「ペンシルバニア」「オハヨ」其外西
方の州にては實は莫大の堀割と設けたり故に此
等の州にては其為に切手と以て大借財と爲した
れども尔後堀割にて上る所の利益は元の費用と
償ふて尚多分の餘りなりといふ
鐵道は素より國家一筋の鴻益と爲すに勿論なれ
ども是は堀割のことと州廳にて作るべき國家の
事業といはるべし是れ其爲に組合ふたる會
社ありて造築する者なりと云ふ今其組合の法

則の欠くべからざるを以て説く人夫れ鐵道へ
その私田をも貫ぬる者なり今も鐵道と造ら
んとて人の私田を取上るに嘗て法令の許るを所
よりいふを能はざる去りて世に一般は鴻益の
る工業よりいふを法令といへども之を取上る
權はなきなり又假令世に一般の鴻益となること
はもせざる之を取上れば夫れ大の償いと持主へ
拂はさるゝと得る各州の國律は云へることあり國
民私有の品に相當の償ひなきんば公用の爲とて
取上ることなり故に新なる企つるところの

鉄道と立法局とて世上の利益となるべく察する
ときハ民の私田を買上る爲に其鉄道と造築する
権力ある組合會社の法則と定む私田の價ハ法令
中定むる所の仕方とて取極むぐ一鉄道の事務と
取扱ふ方も亦モ法令中と取定む置くなり會社入
用の元手總金高ハ組合の法則中と記し載せて左
の法と以て之と集むるなり先づ其總高と幾口と
も分ち一口と百ドル又ハ百ドル以下何程宛と
儲鐵道は金と出して會社なりんと欲する人毎
幾口とて各取らんと思ふ夫と受け持ち總高不

殘賣切れて其金子尽く集り而して後其會社一統
とて始めて鐵道造築はこうする用意を之と買取
て會社に入りたる者と元手方と稱し其中より法
則中と定めたる夫の人数と撰み出して會社世話
役とし其世話役の内より一人の頭取と立之と
買取る者ハ抵りの役人として調印したる一口一枚
宛の證書と受け取るなり其人若し會社へ出した
る金と外の事は用ひんと欲する之と他人へ賣
りて其證書と譲るなり此のときとて證書と
賣買するごとく金銀約定切手と於けるふごとく此

元手旅人と荷物の運送にて受取たる金より
取返り定めしめて其金の内往返と修覆の雜費を
拂ふて其餘りの分と半年毎に元手方中へ分配を
之と元手配當銀と名く鐵路の都合より其所得
極めて大よして之より加り居る者の莫大の利潤と
なることありて證書賣買の相場元價よりも大に
沸騰するに至る「ニューヨークブルフイア」
等のところと商法の大都會に於てハ州廳の元手切
手鐵道為替等の元手證書の賣買を以て金満家連
中の一大正當の商法と云

第二十四章

為替並に受負會社の事

為替座ハ伊太利にて初めて取行ひしものにて昔
時猶太人茲に集り斃子に倚りて金銀と貸し又た
金と預りて手形と取替ふことと行ふたり為替座
と英語は「バンク」といふをえと伊太利にて斃子の
もと「バンク」といふより起りたり其初めて為
替座ハ唯だ人々用心の爲め金銀と預けりしもの
所なりし由なれども方今の為替座といふハ唯だ
預けりし斗のこととよも非ず合衆國の爲替座ハ法令
よりして私に設けたる者ハ一もなかり皆を立

法局の法則^{はふそく}にて組合ふたる會社^{かいしゃ}にて其元銀^{もとぎん}へ
鐵道會社^{てつどうかいしゃ}に於^おけるごとく持口^{もちぐち}と賣^うり證書^{ていしよ}と出
して集^{あつ}むるなり其元手^{もとて}方より自ら世話役^{せわやく}十三人
と撰^{えら}び出し世話役^{せわやく}にて其中より一人の頭取^{かみどり}と撰^{えら}
立^たし頭取^{かみどり}と世話役^{せわやく}にて一人の金拭^{きぬぬぐ}りと書記役^{しきやく}数
人と撰^{えら}びしなり凡^{およ}そ商法^{しょうはふ}流行^{りやうこう}の土地^{とち}に居^ゐる商人^{しやうじん}
等^らの用心^{ようしん}の爲^{ため}に其儲^{たくわ}へたる金^{かね}と爲替會社^{かへがひかいしゃ}へ預^よけ
置^おきて入用^{にゅうよう}のときハ金子受取^{きんしうとく}の書附^{しよふく}と認^{しん}めて會
社^{かいしゃ}へ贈^{くわ}り之と取り出^ださるなり此書附^{しよふく}と英語^{えいご}よ「チエ
ツキ」といふ金子受出^{きんしうしゅ}證書^{ていしよ}の意^いなり唯^{ただ}一度^{いちど}の

とウ又ハ邂逅^{あうごう}ハ金と預^よけて又直^{ただ}之と受取^{うとく}らん
と思^{おも}ふ者^{もの}ハ通常^{つうぐう}金拭^{きぬぬぐ}りより金子預^よりの證書^{ていしよ}を
渡^{わた}る其證書^{ていしよ}ハ預^よけ主^{ぬし}の姓名^{せいしやう}預^よけたる金高^{かねたか}並^{なら}に
其人^{そのひと}の差^さ當^{あた}ハ隨^{したが}ふて其丈^{そのだけ}の高^{たか}と渡^{わた}るハ趣^{おも}と
記^しを又隨^{したが}分^{ぶん}長^{なが}く預^よけ置^おきて後^{のち}其金^{そのかね}と受け出^ださる
ハ爲替座^{かへがひざ}より其利分^{りぶん}と附^つけて渡^{わた}るハ然^{しか}し其
割合^{わりがひ}ハ法令^{ほうれい}に定^{さだ}むる所^{ところ}より少^{すく}なると常^{つね}に此金^{このかね}
子預^{しよよ}りの證書^{ていしよ}も約定^{やくてい}切手^{きりて}其外^{そのほか}通用^{つうよう}切手^{きりて}類^{るい}のとく
互^{たがひ}に賣買^{ばいばい}讓渡^{じやうだふ}等^ら勝手^{かて}なると見^みよ又屢々^{しばしば}金^{かね}
子の代品^{しろひん}として之と遠方^{えんぱう}へ送^{おく}ることもあり然^{しか}る

とれい其地の為替座へ此證書と持参し少分の切
貸して之と金子を替りると得て諸為替會社
の本職ハ商人等の為めは金子と遠方へ送るに在
り假令バニューヨークの甲某ファイラデルフィアの
乙某へ金子千ドル送りたく思ふとれい其金と「エ
ユーヨーク」の為替會社へ納め其代として「フィラ
デルフィア」の為替座名當りて乙某へ金子千ドル
渡すべしとの手形を受け取り飛脚船にて之れを
乙某へ送る乙某之と其地の為替座へ差出し金子
を受け取る而して其為替座ハ此高と「ニューヨーク

」の為替座へ貸しとるなり此手形と英語で「グラ
フト」といふ為替座為替手形となり商法の事と
心得ざる人殊ハ幼年の者ハ「フィラデルフィア」
の為替座ハ其高を貸したる斗にて金子の遣取な
く如何にして其金子を取返さるや定めて合点
申さぬなるべし蓋し其兩都會互の商法向て諸
商人各其為替座と以て双方互に金子の取引とを
るくと日夜間断あることなる之より由て兩處の為
替座も自ら金子の出納暫くも止む時なると以て
互に之と差引とるると得るなり此の如くして

其會社の小雜費の外を別な費もなく其外路上の
盗難災難等の患もなく年々兩都會の間は金子と
遣取すると百万金と以て数ふべし為替會社にて
亦金と貸すとも借りたり借る人思ふ者い
欲する大の金高の證書と認め自ら調印一人又
い数人の受人裏書して之と差出せし金掛り願ひ
の金高より返済の日限までの利分と引て之と渡
す之と證書の高と引落すと稱す
為替座金切手といふ者あり都て金子と同様に通
用と是れ何時までも持參の者一某の金高と拂ふ

べしとの約定にて頭取と金掛りにて調印したる
一枚宛の切手より酒屋切手菓子屋切手杯と趣
と同ふして其用と異ふ其通行現金と異なる
なす所以何時までも為替座にて金子と拂ふ取
極めず此なり此金子と拂ふと金切手引替と
稱す金切手不殘の引替出来ざるやうなりたると
いは為替會社分散と稱す會社分散とて別
救ひ道之あるよしある金切手所持の人へ全く損亡ぬ
ざるあり州よりて一々元手方の私有品と取揚賣拂
て金切手引替と致さしめ以て其損亡の償とさるもは

と未だ諸州一統の法といふなり
茲より自由為替座といふ一流の為替の立て方あり
近來此立方と採り用ゆる州徃々之あり之と自由
為替と名くる所以に別は一箇一箇の法則ありと
なく一の通則ありて此通則は隨ひてそれ誰
よても又何れの仲間よても為替座と設りて為替
の事務と施してよとざる故なり故に亦之と
通則の為替法とも名く此通則よて為替と始めん
と思ふ者ハ州の掛り役人一切手引替の引當と納
入置と切手と出とも其引當の高は過ると許さず

此引替の引當ハ慥なる州の元手切手ハ合衆國
の元手切手より成る又ハ此等の元手と地面と
と以て備へんと要し若し其為替座分散すると
とい州廳は引當として預り置きたる地面元手等
と賣拂ひ其金子と以て切手の引替と致さなり蓋
し此法ハ世間の為とい一統ハ都合ハ仕組なる
べーと思ふなり

受負會社も亦ハ法令と以て設け立つる者よて
其事務ハ大事の損亡と受負するは在り其受負と
頼まんと思ふ品の金高百分の何程といふ僅の

金子と兼て會社へ納め置き若し火事にて其品
と亡ふとありとも直に會社より其品の金高と償
ふとの約定と致さなり其外海船受員の會社あ
り又た人命受員の會社あり是は其受員を受けた
る人若し死するところば其家族又ハ其受員切
手中に書き載せざる人へ何程に約束の金高と渡
さるべしとの約定と為さなり都て受員と受けんが
為に兼て會社へ納むる金と受員債と名く受員會
社の元手方へ損亡償の爲に出一たる金高よりも
受員債として納まりたる高より余計なをば其余計

の分と其利得とをもちなり假令バ會社より二千枚
の受員切手と出一其受員ふたる品の金高一枚毎
に中等千ドル宛とすると其不殘損亡の償ひ
二百万ドルとなる今其受員債と一步の百分とをもち
とすい受員債として受取りたる總高二万ドルな
り故に若し其受員年限の間は二千の人家一軒も
火事類焼之なきとせば二万ドルの全の利得とな
る若し其間其内十軒類焼をもちても尚一万
ドルの利得あり若し二十軒とも類焼せば利得ハ
更に之なくして却て會社諸雜費夫の損亡に至る

なり但し此のとくして数年の間受負品損亡の數と其金高とを會計して其中等と取り元手方其元銀は相應の利分を得らるゝやうに受負貨の歩割と取り定むると得るなり其歩割ハ品物によて同トらば火事によつて易々者ハ火事遠き品よりも其歩割自ら高しとて會社の利得ハ半年毎又ハ一年毎は各其出高に應じて元手方一統に配當と所謂ある會社の配當銀なり又た受負會社ハ一種異様の者なり是ハ右のごとく會社と結んで他人の品と受負ふ者ハ何れも

して其名と社中受負會社と稱を蓋し同社中互に相ひ受負ひらふ者よして相共は其所有品の價ひと定め其價ひの分割銀を出して之と積金と一同社中火事は逢ふ者何れも之よて其品の價と償ひ若し其積金尽きるとハ人々其始り受負と請ふた元高に應じて用金と出し再び積金と備ゆるなり

第二十五章 民兵の事

自國を護て外寇を禦ぐハ各其政府の任なり故に國民の内能く軍事に堪ゆべし者ハ皆を悉く之と

兵籍を上げ年々某の日数を定めて會合し軍事の演習訓練を行ひ以て他日の變に供つて能く其戰關に堪へしむ此のとき兵籍を上げた兵隊と民兵と稱し民兵といふ總名より分けて之といへば歩兵騎兵炮兵なり歩兵といふ歩兵で戰争する兵といひ騎兵といふ馬上にて戰ふ兵といふ炮兵といふ大炮其他重き兵器と取扱ふ兵なり民兵へ唯に他日の變に供つて外寇に備ゆる為のとならん州内の民兵或は其一部分を以て其州の施政と保護し一揆叛逆と鎮壓する為にも用ゆるなり

一揆といふ政府に抗して其施政を妨げんとする黨といふ叛逆も畧之と同じといふも叛逆の方へ現在の政府と覆いて別な一政府と興さんとする企てなり政と施して其通行と守護するは施政局の任なりと以て國律中既に奉行として之が為に十分の兵力と興をへし権力を持たしむ合衆全國中白色人種より十八歳より四十五歳の身体壯健なる人民に皆を其住居する州中の軍役と務むべき者とす但し其州法と合衆全國の法にて軍役外の人と定められたる者ハ格外なり州法にて軍

役と免るも者ハ法教ハ從事も人某の年數間民
兵の上等士官と務めたる者常備兵よりて某の
年限と務めたる者消火の隊よりて某官員の
職に在る者等はなり州よりて大中小の學校に
在る教官生徒も皆な軍役と免るなり其余尚ほ
るべし合衆全國の法令にて免る者ハ副統領並
大政府の施政屬吏裁判諸役立法院諸役輩港運上
所役輩並其書記官飛脚座役輩宿驛御者海道筋
渡守水先並舟子等なり州内の民兵と統括して
之々元帥たるハ各其奉行なり是れ諸州の國律に

定め置く所なり合衆全國の海陸軍と統括し事
臨し諸州の民兵と呼出して之と統御し以て其大
元帥となる者ハ全國の國律に於て時の大統領と
定む既前にも論じたるごとく一州の兵ハ悉く奉
行の支配に任せて以て其政府と四民と保護する
者なれば全國の兵權を握て全國の政と施し外寇
と禦し敵國と征する者ハ大統領よりて誰
ぞ是れ大統領と奉行とい軍役と免るハ官員の中
より入らざる所以なり
既ハ兵籍に入りて居ながら演習と嫌て出勤せざ

る、法通りの装束と着ざりて出づる者ハ軍事裁判所
於て糾問ニ掛くるなり軍事裁判局ハ通例兵官三人より成り或ハ其州法ニ由て命トたる他
の役輩三人より成る又た時よりてハ其数三人より多きともあり其人若し糾問の席ニ於て誤失
の申訳立ざるときハ法通りの罰金と納めしむ奉
行ハ次ひて民兵士官の最上なる者ハ軍監頭取是
なり是ハ上等士官不殘の名列帳と所持し各其奉
命の月日其位階等級其住所並ニ其屬する所ハ何
れのコールなりや何れのデビシユンなりや何の

アリゲードなりや又何のレデメントなりと細
註し元帥府の諸令と各位のデビシユン一
布告し元帥民兵隊検査のときハ其所出張し州
法ニ由て設けたる鍊兵の制度と實地ニ施行
し附て元帥の令よりバ尽く之ハ順從奉行するな
り茲ニ又た州よりてハ一人の兵備頭取を置く
ル所ハ是ハ武庫火藥倉等と管轄し武庫ハ大砲
小銃火藥彈丸等の物と貯へ置き何時も取用
するやう致し置くなり
世ハ兵ハ凶器なりと思ふて軍役と務むると存意

は當らむとるもの有り蓋し人の存意を枉げず
諸他の通義と保護とるハ我ガ共和政治の大主眼
なるを以て諸州の國律中武器を用ゐるを嫌ふも
のハ軍役の代として年々若干の金と拂へば之を
免とづとの一条と定め置けり然し其金と拂へ
しむることすらして既ハ已ハ人の存意を屈する
ハ何れをやと疑へば疑ふべく且つ自ら軍役と
為とも軍役の代と拂ふも義理人情ハ於てハ均
く未だ凶暴たるを免れんと思ふ者も實は多
州よりてハ法教の道ハ從事する者ハ皆な軍役

金と出さむして之を免るゝ處も有り「ニュー
オハヨ」の二州ハ在てハ大平無事の時は民兵と演
習するハ絶てなく常備兵ハある者ハ元より別
段として外ハ軍役ハ堪へざる者ハ皆な悉く民兵
の籍中ハ納められしをねども演習の役と務むるハ
決してなく其代りハ年々少分の運上と収めしむ
此運上「ニューヨーク」よてハ半ドル「オハヨ」よてハ
半ドルと出さむ又ハ一日の路普請役と務む民兵の
演習検査と廢する法ハ實ハ有益の事と思ふ今
其一二の理と擧て云ハ第一民兵と云ふ者ハ調

錬と以て眞に錬熟と云ふことハ述も出来ぬなり
第二は此の如く不用の調錬は時日金銀兵器費束
と費之が為難渋と云ふもの多し第三は何
事も用意と齊へる時間なき程急遽は大民兵と興
して戦闘を始むべきことハ先づ之あるべからざる
なり預め他日不測の變は供へんは右の二州の
よく平日心と合せて錬熟し居る郷勇の隊と國家
の常備兵とで十分の事と察せらるる今や耶蘇教
化の文明列國は於てハ戦闘を以て兩國の爭論と
決する風ハ漸く少なくなりたり實は一大